

津軽塗

TSUGARU NURI

風土とひとの心が紡ぐ匠の技

本州最北端に位置する青森県。

この土地には、固有の気候風土に根ざした独特の文化や風習、そして産業が脈々と受け継がれ、青森ならではの暮らしがあります。

太平洋・日本海・津軽海峡・陸奥湾の四つの豊かな海に囲まれ、気候風土も歴史的背景も異なる二つの地域から構成されています。

過酷な冬場を乗り越えるための創意工夫や、手間暇をおしまない仕事、数々の「暮らしの芸術」を生み出しました。

風土とひとの心が紡ぐ、あたたかい青森の手仕事をご紹介します。

本年十月、津軽地方で伝承されている漆器製作技術「津軽塗」が青森県で初めて国の重要無形文化財に指定され、その保持団体として「津軽塗技術保存会」が認定されました。漆芸分野での重要無形文化財の指定は、個人を対象にした人間国宝を除くと、石川県の輪島塗に次いで二例目となります。

津軽塗の歴史は、江戸元禄年間、津軽四代藩主信政公が、産業、文化を活性化させるため、諸国から指導者、技術者を招き入れたことから始まったとされています。江戸時代を通じて津軽藩の保護・育成の下、主に藩の調度品として用いられ、明治初期に産業として確立した後、人々に親しまれる愛玩品として幅広く使われるようになりました。

津軽塗は、ヒバの素地から塗り、研ぎ、磨きを繰り返し、約五〇もの長い行程を経て完成される堅牢優美な塗物で、唐塗・七々子塗・紋紗塗、錦塗の伝統的な四つの技法は現在まで脈々と受け継がれ、現代風のアレンジも加え、多様な紋様を生み出しています。

【経済産業大臣指定伝統的工芸品】



りんごっこ ブルー・レッド・グリーン 各10,000円 (イシオカ工芸)



青森県